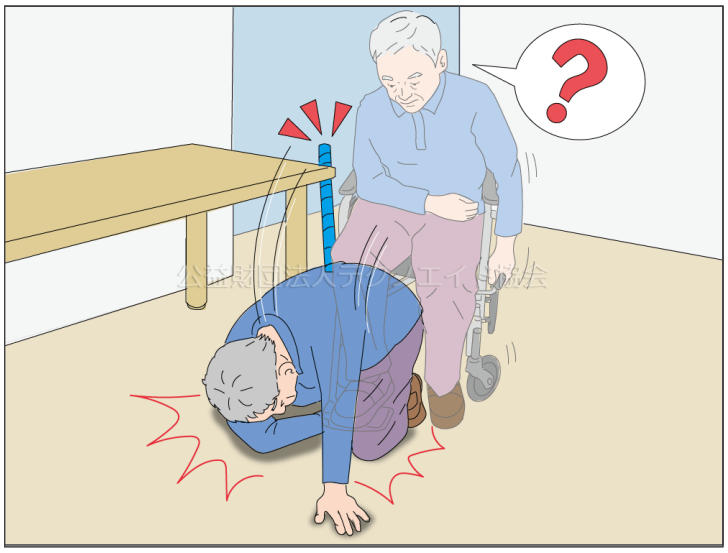
Case：427

ラップの芯で代用したブレーキ延長棒がテーブルに引っ掛り動けなくなる

場面の説明

車いすを自走する際に、ラップの芯で延長したブレーキ操作棒がテーブル角に干渉し、ブレーキがかかってしまったことに気づかず、無理に進もうとして転落しそうになる



利用シーン	移動
主な利用場所	ダイニング・食堂
介護保険の種目	車いす
分類コード (CCTA95)	122106 (後輪駆動式車いす)
介護テクノロジー	ー
二次元バーコード	

解説

片麻痺の利用者が車いすを自走する際、麻痺側ブレーキを操作しやすくするためにラップの芯などでブレーキ棒を延長することがありますが、テーブルなどに干渉し意図せずブレーキがかかってしまうことがあります。転倒や転落のリスクが高まりますので、延長は基本的にメーカーの純正部品を使用し、ラップの芯等で工夫する際にもテーブルなどとの干渉を事前に確認しましょう。

参考要因（要因の例であり、これだけが正解ということではありません）

人：麻痺側に注意が払われていなかった
人：誰もがやっている工夫なので、危険を予測していなかった
人：延長したブレーキ棒がテーブルに干渉する可能性を意識できなかった
モノ：ラップの芯で工夫したブレーキ延長棒が長すぎた
環境：通路が狭く延長棒が周囲の家具と干渉しやすかった
管理：ブレーキ延長の方法や安全確認が現場まかせになっていた

作成：公益財団法人テクノエイド協会
Copyright 2026 Association for Technical Aids, Inc. All Rights reserved.